

ナガサハイシ 長澤石 鳳至郡長澤から産する石材。輝石安山岩で、黝色の石基中に、分解した黒色輝石及び白色斜長石を含み、質は硬い。

ナガサハカンワ 長澤亮和 金澤の俳人。通稱五平。奥村河内守の臣で、若虬に學び、小春庵三代を稱した。安政年間歿。

ナカザハタロエモン 中澤太郎右衛門 もと山城西之岡の産。加賀に下り、慶長五年高山南坊に臣事したが、十九年南坊の京都に送致せられた後、江戸に往きて土方雄重に仕へ、能登の知行所裁許となつて鹿島郡山崎村に住し、次いで病に依つて卒人し、小島村に居た。

この時南坊の舊臣牧十右衛門は、江戸に召寄せられて宗門の吟味を受け、太郎右衛門のことを告訴したので、正保元年太郎右衛門も亦吟味せられたが、實は禪宗靈龍寺の檀那であつたから、翌年宥されて小島に歸り、慶安三年歿した。子孫三郎は落魄したが、宗門吟味に逢うた者の忤であるといふ理由で、寛文十一年以降二人扶持を賜はつた。

ナカザハヒテフサ 中澤秀房 大聖寺藩士。通稱久兵衛。父は美濃高須の人で大塚市兵衛といひ、加賀藩の横山長知に仕へ、祿百五十石を受けた。秀房はその二男で、初名を雅樂介といひ、寛永十七年前田利治に召出され、氏を中澤と改めて小々姓となり、祿百五十石から四百石に進み、手廻頭となつた。萬治三年秀房、利治の遺骨を上州板鼻に迎へ、五月三日之を岡村の宗英寺に送り、自ら全昌寺に入つて切腹した。享年六十五。

ナガサハホ 長澤保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登岡田數目録に「長澤保、無

定田、建久二年檢注田定」とある。後世亦長澤保がある。

ナガサハホ 長澤保 鹿島郡に屬し、藩政時代では、曾祖・下曾祖の二ヶ村を含んで居た。

ナガサハミツクニ 長澤光國 筑前と稱し、上杉謙信の士大將。越中水見西念寺の書上に、中比守山の神保氏張と飯山の中澤筑前守と合戦の際、飯山から當寺へ取出で、守山から押寄せたとあつて、中澤は長澤と同じく、筑前はもと鹿島郡長澤村の郷土であつたのであらう。天正五年七尾藩城の後光國は穴水城に居り、同年松波義親を討つて之を滅ぼし、七年また温井景隆等を攻めて石動山に走らしめたが、瀧坂の戦に死んだ。→ヌクキカゲタカ 温井景隆。

ナカジマ 中島 江沼郡鶴岡に屬する部落。藩備村瀬克忠に學んで最も經書に通じた。天明の初老臣前田孝友、尙を擢で、儒臣としたが、寛政四年藩學の起るに及びその助教となつた。著す所格心論・大學要解・大學講說・大學追正・中庸追正・論語集正 儒者談議等がある。生歿の年は詳かでない。

ナカジマ 中島 石川郡河内庄にある部落。郷村名義抄には、この村は古へ廣瀬といふたのを、能美郡廣瀬に近いから改めたのであるが、その時代は明らかでなく、正保の高辻帳には既に中島とあると記して居る。

ナカジマ 中島 鹿島郡熊木院に屬する部落。明暦五年の村御印に熊木中島村とある。今も里人は中島・上町の二部落を熊來といつてゐる。元祿の郷村名義抄に、この村は往古熊來川が二筋に流れた時の中島であつたと記する。能登名跡志に「家數二百軒餘あり。町作りなる所。御藏所あり。此邊を熊木の郷と云て、昔は入海にて船多く着、繁昌成所にて、萬葉にはしたてのくまき酒屋にまぬらるやつこわし云々。此外にも長歌あり。略す。今に熊木酒屋といふ者あり。熊木川とて大川あつて、長八間半の橋あり云々。大野木氏十村役

あり。」と見える。明治中に至り、一時婚嫁を分せしめたが、十九年再び併合した。

ナカシマ 長島 石川郡山島郷に屬する部落。祇陀寺文書應永二年十月朔日附鶴童丸の判書に、「加賀國河内庄祇陀寺領中路長島之内田地等事領丹後守致押領云々。」とある。

ナカシマ 長島 羽咋郡祝谷の内の小字。ナカジマカブラナ 中島兼業 鹿島郡中島地方に産した。初秋種子を下し、翌春四月頃採取する。一莖目形六七百匁、鹽漬としてその芳香辛味を賞せられるとある。

ナカシマシヨウ 中島尙 初諱儒、後尙と改め、又恒久ともいうた。字は子成又は子羽、通稱半助。その號石浦は金澤石浦町に住したに因る。初め石川郡宮腰に在つて醫を業とし、藩備村瀬克忠に學んで最も經書に通じた。天明の初老臣前田孝友、尙を擢で、儒臣としたが、寛政四年藩學の起るに及びその助教となつた。著す所格心論・大學要解・大學講說・大學追正・中庸追正・論語集正 儒者談議等がある。生歿の年は詳かでない。

ナカシマセイエモン 中島清右衛門 江戸の町人で乗物製造を業とし、加賀藩の用命を奉じた。その祖清兵衛は京師に住し、足利氏の興職であつたが、秀吉が興を不便としたにより、乗物を工風して之を奉り、前田利家の爲にも亦之を進めたに起る。

ナカシマテツサブロウ 中島鐵三郎 大聖寺藩の歩士。業の養子。幼より武技を好み、安政元年越前大野の内山介輔に就き神道無念流の免許を得、萬延元年江戸に往き、同流の齋藤彌九郎より奥儀を受け、更に元治元年直心陰流柳原鏡吉の門に入りて皆傳せられ、後

藩の子弟に教授した。明治三十四年十月廿二日播磨に於いて歿、享年七十四。

ナカシマトモアキ 中島奉璋 通稱誠左衛門。初め新番に列し、安永六年養父小兵衛奉忠の致仕後、祿百五十石を襲ぎ、前田重教の近習となり、九年百石を加へて大小將に班し、次第に昇進して御先簡頭に至り、寛政三年御免、四年十月四日歿した。

ナカシマトモタダ 中島奉忠 通稱勤左衛門・小兵衛。享保十一年養父津太夫の遺知百石を襲ぎ、御興風料三十石を受け、明和中五十石を増し、安永六年致仕して十五人扶持を受けた。

ナカジマノヨイチ 中島の興一 鹿島郡中島の人。前田利家が能登入國の頃馳走して、天正十年九月扶持米拾俵を受けたが、その宛所に熊來村興一とあり、熊來は中島及び上町の惣名である。二代目太郎左衛門を経て、三代目太郎右衛門に傳へたが、元和二年改めて高十五石を扶持せられることになつた。四代八郎右衛門の時慶安四年又高三拾俵と改め、萬治三年死亡の五代太郎右衛門、貞享元年死亡の六代太郎右衛門、及び七代興一皆之を傳へた。この家は元祖興一以後常に十村の職に任ぜられた。

ナカジママチ 中島町 金澤の町名。今上中島町・下中島町に分かれる。元は淺野中島村の村地であつたのを町地としたからの名だといひ、又昔は淺野川の中島なるを築出して町地とした爲の名であるともいふ。

ナカシロトヨキチ 中城豊吉 鳳至郡中居の人。諱は積信。天明二年十一月生まれ、新田裁許となり、最も算學に達し、安政三年正

藩の子弟に教授した。明治三十四年十月廿二日播磨に於いて歿、享年七十四。